

念々堂だより

編集・発行 念々堂
発行者 岸上仁
558-0055 大阪市住吉区万代 5-17-27
メール hello@nennendo.com
ホームページ <https://nennendo.com>
念々堂事務局 06-6674-1181(受念館内)



街角に

花の御堂の

開かれり

(むつこ)



「念々堂」にご来館のかたからお便りがあり、素敵な歌をいただきました。

二〇二四年四月八日に開設してから三か月。いろいろな方にご来館いただき、本のご寄贈で本棚も充実しました。たくさんお祝いもいただき、さまざまな方々に支えられて、おかげさまでいいスタートをきることができました。いろいろな出会い、語らいがあり、日々「念々堂」という場所を皆さまにお育ていただいているように思います。ほんとうにありがとうございます。

念々堂代表 岸上仁

特集

念々堂スタッフからの

メッセージ



念々堂は開設から日々の運営まで、ボランティアスタッフによって支えられています。スタッフのみんなが、念々堂という場所に思い入れをもって取り組んでおります。今回はそんなスタッフから皆さまへのメッセージをお伝えします。

えなつち



一九八一年大阪堺市生まれ。幼少期よりスポーツ漬けの生活だったが十代で椎間板ヘルニアを発症、二十代以降は変形性腰椎症、狭窄症、ぎっくりと腰痛のグラインドスラムを達成し、現在も腰痛と共に生活しています。

専門学校で運動処方とボディメカニクスの大切さを学び、卒業後は二十年スポーツインストラクターとして勤務。現在は念々堂の隣にある軽費老人ホーム「受念館」の職員として、入居者さんと毎日楽しく過ごしています。

「受念館のなんでも屋」と呼ばれています。

▽趣味・ソーシャルゲーム(界限では有名)、スポーツ観戦(特に格闘技)

▽好きな本…古代の遺跡や遺物、都市伝説系、漫画

こんにちは、腰痛持ちのえなつちです。毎朝、念々堂にてコーヒーマシンをセットし試運転のコーヒーを淹れ、至福の一杯を楽しんでいます。念々堂のコーヒーは岸上代表が京都で出会ったお店で、オリジナルブレンドの豆を使用しています。個人的には氷をたっぷり入れたアイスコーヒーのブラックがおススメです。

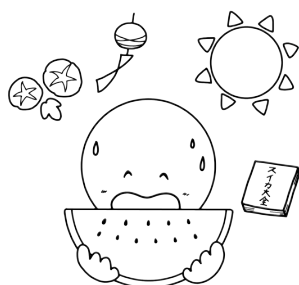
念々堂がオープンして三ヶ月が経ちました。

日々の図書館利用だけでなく、介護教室・認知症勉強会・輪読会・もいい会等イベントへも多数の参加をして頂いており、各会終了後の座談会も良い雰囲気皆さん談笑して頂いております。

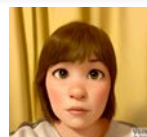
先日は小学二年生の男の子が来館されて算数の宿題を一生懸命した後、隣接している老人ホームの入居者さんと会話している風景を見た時、語彙力の無い表現ですが「念々堂ってやっぱり良いな」と改めて感じました。様々な利用方法で思い思いの時間を使ってくださっていますが、「居場所」として念々堂を選択して足を運んでもらえるのはスタッフ冥利に尽きます。学校の宿題をしたり、パソコンを持ち込んで勉強したり、友人と習い事の帰りに寄ってくださったり、店番の私のたわいもない話に付き合ってください。これからも念々堂で過ごす時間を皆さんと共有できれば嬉しいです。

皆さんの「居場所」の選択肢の一つとして念々堂を選んでもらえるよう、代表と共にスタッフ一同張り切っています！

九月からも毎月開催予定の介護教室・認知症勉強会等のイベントがあります。普段相談しにくいご家族の介護の事、ご自身の体調の事等を相談する場所として念々堂まで足を運んで頂ければと思います。スタッフ一同、お待ちしております。



みいさん



一九七四年兵庫県生まれ。一児の母。動物が大好きで子供の頃にシヤムネコ、大人になってからはチワワを飼っていました。

最近約二〇年ずっと大好きなアーティストの推し活を楽しんでいます。

チャレンジ精神旺盛で、営業職で培った根性も活かし様々な事に挑戦したいと思っています。

▽趣味・音楽鑑賞、読書、ソーシャルゲーム

▽好きな本…ミステリー

スタッフのみいさんです。私が念々堂のお手伝いをさせて頂くようになったのはオープンの四週間程前だったと思います。

内装が完成し今から本を並べるといふ頃でした。まず驚いたのは岸上代表の自宅から持ってきたという本の多さです。「趣味は何ですか?」と聞かれたら何個かあるうちのひとつとして読書と答えていたのですが、それが恥ずかしくなるような量と様々なジャンルがありました。

それを一冊ずつ並べていく過程はとても楽しかったです。普段本を買う際、好きな作家さんの新刊が出たらネットや本屋さんで購入するのですが殆どゆっくり他のジャンルの本を見る事があります。ちなみに一番好きな作家は「イヤミスの女王」と言われている湊かなえさんです。イヤミスとは読み終わった後に嫌な気持ちになるミステリーの略です。ですが、それがとても読んで面白いです。

そんな感じであり他のジャンルの本を読むことが少ない私ですが、念々堂に来ると様々な本が置いてあるので気軽に手に取る事が出来ます。そしてご寄贈頂いた本も含め自宅にあった要ら

ない本ではなく誰かに読んでもらいたい本を置いていますので興味は沸く本が沢山あります。

念々堂には珈琲だけ飲みに来られる方、勉強される方、パソコンで作業される方と様々な方が来られます。また勉強会等も開催しているので今までの自分の生活では関わる事の無かった方達と出会う事が出来、私自身も念々堂に居る時間を楽しく過ごしています。

オープンして三か月、様々な方とお話させて頂きましたが、普段外出が苦手な方が念々堂なら行ってみたいと思っただけで来て下さり、こっそりと私に話をして下さった時はとても嬉しかったです。そして少しでも人との繋がりを持ってもらえる場になればと願っています。

念々堂には代表こだわりの豆を使用した美味しい珈琲や100%ジュース等取り揃えています。これから暑くなりますのでドリンク飲みに涼みがてら寄って頂き、様々な本を手にとって頂けたらと思っっています。そして他に本を読まれている方が居られなければ、ちょっとした愚痴くらいはお付き合いできますので・・・



まきいし

一九八〇年、大阪生まれ。結婚機に関東地方に十五年在住。

様々な場所に行っただけで感じているのは、人と人が関わり合う場所が沢山ある地域が人々の生活を豊かなものにしていて、ということ。東京・大阪での子育ての経験を通して自分が今、できることを模索中です。

▽趣味・植物育て、旅行
▽好きな本・旅行記、エッセイ

はじめまして。四月八日より念々堂で店番をさせて頂いて早いもので四カ月が過ぎました。

地域の方々をはじめ、少しずつ図書館を利用される方も増えてきて、本を読まなくてもコーヒーだけ飲みに来たと元気なお顔を拝見させていただくこともあったり。土曜日の講座が開かれますと遠方からも足を運んでくださり、ありがとうございます。

私は大阪で育ち、結婚後は千葉・東京へと移り住みまして、長男が小学校へ上がるタイミングで夫の転勤が決まり生まれ育った大阪へ戻ってきました。

こどもがまだ小さいときは、知り合いの居ない東京での毎日はどうなることかと思っただけですが、ご近所さん、地域の方々に助けていただきながら、今、思うとかけがえのない日々をおくる事ができました。こどもと一緒に散歩をしていると気軽に話かけてくれる人が居たり、こどもが道で立ち止まってしゃがんでいると大丈夫？何か見つけた？と声をかけていただいたり。

地域の方々が気を掛け合っただけで話が始まる様子がとても心地よく、また東日本大震災の時には放射能汚染の影響で水道水が飲めない、公園で遊べない等今まで経験したことのないことが次々に起こりましたが、震災後はマンションの住民同士で声をかけあい、お互いのことを知らないのと何か起こってからでもすぐに助け合えない、と積極的に集まり、顔見知りが増え皆で防災に取り組み意識が高まりました。

何か起こっても皆で協力して助け合えるという環境は、私にとって毎日の生活の中で大きな安心感を持つことができました。

こどもが生まれてからは図書館に通う回数が増えました。当時、住んでいた地域には図書館が二つあり、公園で遊んだあとは、どちらか近い方の図書館に寄ってこどもの好きな絵本を借りて

帰る。これは外で走り回るのが好きで毎日公園で遊んでいた長男にとって、家に帰る前に好きな本を借りて帰るというのはワクワクすることだったようです。まだ遊びたいこどもをスムーズに公園から引き上げられることは私にとっても有難く、暮らしの中で図書館が身近にあって、公共の場では走り回ったり大きな声で話さないとマナーを教えるいい機会になったように思います。

大阪に戻り、こども達が成長をしていく中でこちらがオープンすることを知りました。

念々堂には本屋さんや図書館では置かれていない本もあり、本が好きな方、地域の方々と交流をしたい方など様々な出会いがあります。本を通して自分が興味があることがわかり、今から本が読める時間・空間があることは特別なことだと思いつながら、毎週、楽しく店番をさせて頂いています。こちらでたくさんの方にお会いできますことを楽しみにしています。



主なできごと

▽四月八日(月) 念々堂開設

お釈迦さまのお誕生日に開設。十時のオープンから大勢の方にご来館いただきました。お祝いのお花も多数いただきました、ありがとうございます。



▽五月一日(水)

貸出を開始しました

▽五月十一日(土)

初めての念々堂での学習会「念々学舎」がはじまりました。記念すべき第一回は、代表・岸上による「医学書では学べない認知症のお話」です。二〇名の方にご参加いただきました。様々な境遇の方が一堂に会して同じ問題を一緒に考える会ができたのは本当にありがたいことです。六月、七月も毎回二〇名前後ご参加いただいております。



▽五月十八日(土)

初めての「家庭介護教室」が実施されました。平田晃之先生のもと、介護の基本をわかりやすく教えていただきました。一〇名の方にご参加いただき、受念館老人ホームの職員のみなさんも一緒に、介護の実践について学びました。ご家族の介護を経験された方から、もっとはやく知りたかった、というお声も出ています。六月、七月も継続して介護の実践について学びをつづけています。



▽五月三十一日(金)

初めての「仏教書の輪読会」を実施しました。宮下晴輝先生の「仏教は何を教えるのか―生老病死の中で―」を読み始めました。一〇名の方にご参加いただき、六月、七月も継続して一〇名前後のかたにご参加いただいております。

数行ずつ、かわるがわるに音読して、そのあと本の内容について吟味したり語り合ったりします。質問や、それぞれ抱えておられるお話もでたりして、語り合うなかで「生きること」を学びあう有意義な会になっております。



▽七月一日(月)

『南御堂新聞』様に取材をいただきました。念々堂のことが八月号に掲載されました。

▽七月六日(土)

土曜日の開館時間を十八時に延長しました。

▽七月二〇日(土)

摂南大学現代社会学部より、松本恭幸教授と学生さん四名による取材がありました。九月に北海道のまちライブラリー@ちとせで開幕するブックフェスタジャパン二〇二四で、関西のまちライブラリーの活動について学生さんが取材したことを現地で報告し、市民の方々とトークされることので、取材対象に念々堂を選んでいただき、訪問されました。

▽七月二十六日(土)

月刊誌を数種類購入し、読んでいただけるようにしました。



日々の出会い

▽受念館の入居者さんにもご利用いただいております。その中でも、ほぼ毎日読書に來られる方がおられ、仏教書を一日中熱心に読まれています。自ら書棚の掃除をしてくださったり、誰より長く図書館を見守ってくださったりしており、念々堂の守り人のような方です。

▽また別の入居さんには、ご自身の幼少期の恩師のことをお話いただき、そのことがきっかけで、念々堂でその方にまつわる本を購入しました。また俳句を詠まれるとお聞きしたのがきっかけで、砂山信一さんの歌集『珠洲の海』をお貸ししたところ、深く心をうたれ、ご自身も歌を詠まれました。そんな図書館ならではの心の交流があります。

▽デイサービスの帰りにご友人とご一緒に立ち寄っていただき、コーヒーを飲みながらゆっくりお話しする時間を楽しんでいただいております。

▽受念館の入居者さんと、ご近所の方との交流も生まれています。

▽介護の仕事で近所を回られている方が立ち寄りられて、仕事の整理をするのにもご利用いただいております。

▽近隣の病院にご家族のお見舞いにいった帰りに立ち寄りられて、本を借りていかれるかたもあります。

▽学生さんの自習にもご利用いただいております。落ち着く空間で勉強がはかどると言っていたいております。

▽念々堂の隣の受念寺には、かつて「サトリ幼稚園」という幼稚園が併設していました。その幼稚園の卒園生というかたやご家族がご来館され、当時の写真を多数いただきました。



▽「えなっち」のエッセイにもありましたが、夏休みの宿題をする小学生のお子さんを受念館の入居者さんとの交流も生まれています。他にも、お母さまとお子さまと一緒に來られ、絵本を借りて行かれることもあります。世代を超えた交流の場所となっております。

▽念々堂にはインドボダイジュがあります。一度葉っぱが全部落ち、枯らしてしまっただけと思いましたが、その後復活して、最初よりもどんとどんと葉っぱが芽吹き、あつという間に大きくなりました。



新入荷のご案内



▽『ウィリアム・メレル・ヴォーリズ・写真集』

幼少期、ヴォーリズ氏の幼稚園で過ごした来館者のお話がきっかけで購入しました。

ヴォーリズ氏は、明治期にプロテスタントの伝道者として来日、メンソレータムで有名な近江兄弟社グループを築いたことで知られますが、私有財産を持たず、病院や学校などの社会事業に捧げたといわれています。

▽SUNU 著、平岩幹男監修『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』

▽平岩幹男『知的障害を抱えた子どもたち…理解・支援・将来』

▽加藤進昌『ここは、日本でいちばん患者が訪れる大人の発達障害診療科』

▽太田晴久監修『大人の発達障害 仕事・生活の困ったによりそう本』

▽辻井 正次ら『発達障害支援者のための標準テキスト…幼児期から成人のアセスメントと支援のポイント』

発達障害についての理解を深めるべく購入しました。

▽宮下洋一『死刑のある国で生きる』

罪をつぐなうとはどういうことか。社会問題について仏教を通して考える会『もーいい会?』で死刑制度を考えることがテーマの回で、話題に上がった書です。

▽ダニエル・L・エヴェレット(屋代通子訳)『ピダハン』

「言語本能」を超える文化と世界観
異なる文化をどう受けとめるか。西洋文化があたりまえになっている私たちが気づかされることとがたくさんあります。

▽辻山 良雄 『本屋、はじめました 増補版』

ただの書店ではない、独自性のある書店として注目されている「本屋」の店主辻山氏の書氏が本屋という形で成し遂げたいことは何か。心ひかれることばがあります。

▽斎藤慶典『力と他者・レヴィナスに』

現象学を学びたいと思いつながら、なかなか手が付けられませんでした。

が、この本からなら入れるのではないかと教えていただきました。フッサールからレヴィナスまで、なんとか少しだけでも触れたいと思います。



念々堂の学習会「念々学舎」のご案内



五月から、念々堂の学習会「念々学舎」がスタートしています。九月以降に予定している学習会は以下の通りです。また、イベントや学習会を開催したい方はご相談ください。

医学書では学べない認知症のお話

〜認知症を通して「生きること」を学ぶ〜(全六回) (定員：約二〇名前後、会費：一回一〇〇〇円)

認知症を学ぶというより、認知症を通して人間を学ぶ。そんな姿勢で、脳神経内科であり受念寺副住職でもある岸上仁医師が、認知症診療のなかでいただいた課題を、仏教の視点を通して考えます。

《日程》午後二時〜三時

第十回 五月十一日(土) 認知症から何を学ぶか、認知症の診断

第十一回 六月八日(土) 記憶障害・見当識障害

第十二回 七月二〇日(土) 失語、失行、失認 ↓終了しました。

第十三回 九月二十一日(土) 意欲低下

第十四回 十月十二日(土) 介護への抵抗、幻覚・妄想

家庭介護教室(全六回)

(定員：約二〇名前後、会費：一回一〇〇〇円)

介護講師・平田晃之先生に、家庭で役立つ介護の基本をわかりやすく教えていただきます。

《日程》午後二時〜三時

第一回 五月十八日(土) ①移動介助(実技)②ボイスメカニクス(お話し)

第二回 六月十五日(土) ①食事介助(お話し)②更衣介助(実技)

第三回 七月十三日(土) 移乗介助その①(実技) ↓終了しました。

第四回 九月十四日(土) 移乗介助その②(実技)

第五回 十月五日(土) 排泄介助(実技)

仏教書の輪読会

(定員：約一〇名前後、会費：一回五〇〇円)

輪読会とは、数行ずつ、かわるがわるに音読して、本の内容について吟味したり語り合ったりする会のことです。現在、宮下晴輝先生の「仏教は何を教えるのかー生老病死の中でー」を読んでいます。お釈迦さまが課題とされたことを平易な言葉で語られています。受念寺副住職(岸上仁)が皆さんと一緒に読んでいきます。

《日程》原則第四金曜日午後二時

第四回 九月二十七日(金) 午後二時以降はその都度調整します。

もーいい会?

(定員：約一〇名前後、会費：一回五〇〇円)

仏教を通して人生や現代社会の問題を考える会です。基本はオンラインの会ですが、現地でもご参加いただけます。

《日程》原則金曜日 夜九時

詳細はホームページをご覧ください。

*各学習会のご予約は、現地で直接お申し込みいただくか、下のQRコードからお申し込みください。



*日程や内容は変更することがありますので、念々堂前の掲示板や、ホームページの「イベントのお知らせ」、メールのご案内などをご確認ください。



念々堂会員登録

開館日やイベントの予定をお知らせしますので、QRコードから登録ください。

メール登録



LINE登録

